

TOP

10

ビジネス インテリジェンス
2013年 トレンド

大きなビジネス インテリジェンス 成長の年に

2012 年はビジネス インテリジェンスにとって素晴らしい年となりました。安定したデータベース業界は加速的に成長を続け、新興企業は新しいデータ問題に取り組み、既存の大手企業はそのプラットフォームを一新しています。Web ベースの分析ツールは Web ベースのデータに結びついています。そして、あらゆるものがモバイル化されています。

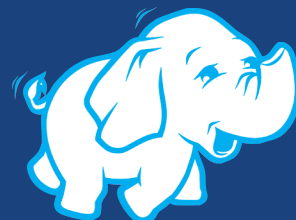
あらゆる組織がデータ革新に注目する中、その変化の速度は今後ますます高まります。今後何が期待されるでしょうか。



データ ストアの急増

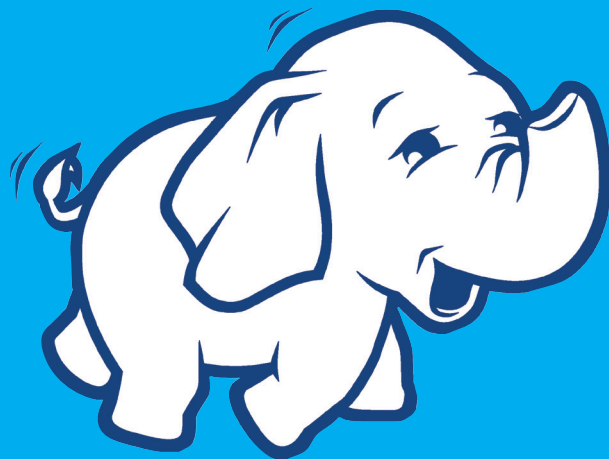
その昔、組織にはさまざまなタイプのデータがありました。CRM データ、販売時点データ、電子メールなど、組織の経営陣は多大な努力を払い、すべてのデータを 1 つの高速なデータ ウェアハウスに保存していました。

2013 年には、これがおとぎ話となります。すべてのデータを 1 か所に保管する組織はもはや存在しません。さらに、1 か所に保管する理由もなくなります。大量のデータは Teradata や Hadoop などの場所に保管できます。取引データは Oracle や SQL Server に保管できます。データや作業負荷に適したデータストアは、解決すべき問題ではなく、優れた IT 組織の特徴の 1 つとなります。



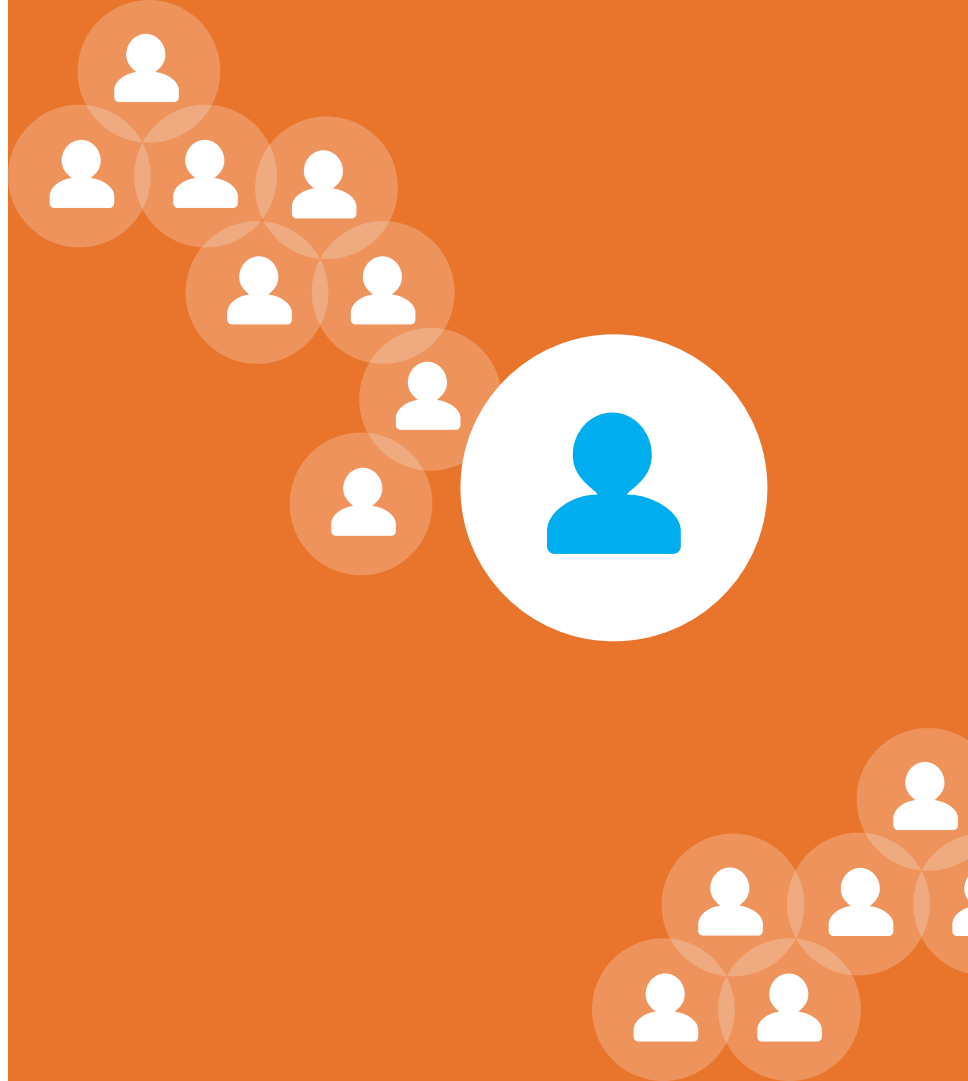
Hadoop が現実に

2008年から2009年頃にさかのぼると、Hadoopは科学実験的な存在でした。2010年から2011年頃には、先進的な組織がHadoopの概念実証を開始し、2012年には、多くのHadoopが生産規模で実施され、また数々の企業がHadoopの弱点への取り組みを試みました。2013年、Hadoopは大容量データや非構造化データを取り扱うための主流の手段となります。また、より高速の分析をより適切なタイミングで実現します。



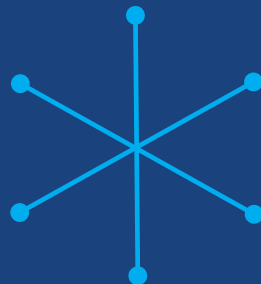
自立性が新しいセルフ サービスに

セルフ サービス BI は、ビジネス ユーザーがより優れた決定を行うために必要なデータを分析できるようにするという考え方です。自立性は、この概念の時代の到来です。これは、ビジネス ユーザーが適切なデータにアクセスできること、そのデータが使用可能な形式と場所にあること、またビジネス ユーザーにセルフ サービス分析が可能なソリューションがあることを意味します。これらすべてが実現できれば、ビジネス ユーザーはビジネス上の問題に自分で対応でき、IT は安全なデータとそれにアクセスするためのソリューションの提供に集中することができます。



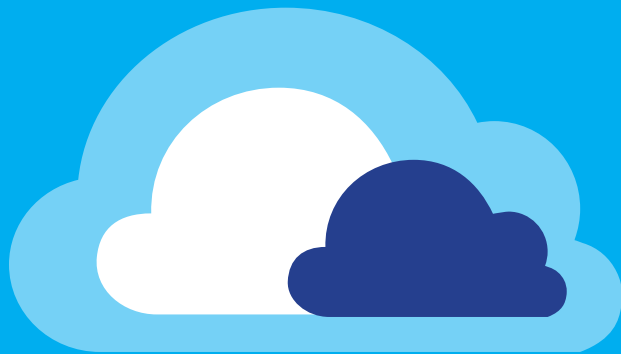
テキストやその他の非構造化データの価値がついに認識される

Hadoop の台頭のもう 1 つの要因は非構造化データです。電子メール、文書、Web 分析、顧客フィードバックは長年存在していましたが、ほとんどの組織が構造化データの理解に苦心しており、非構造化データには対応していませんでした。2011 年と 2012 年には、非構造化データの取り扱いに役立つより多くの技術、特にそれを保管する場所 (Hadoop) が出現しました。Twitter や Facebook への投稿などのソーシャルデータの激増に伴い、テキスト分析の重要性はさらに高まります。2013 年にはこれがさらに期待されます。



クラウド BI の成長

主な BI としてクラウド ビジネス インテリジェンスを採用するなど、これまでは到底考えられませんでした。少なくとも 2012 年までは不可能なことでした。クラウド BI サービスは存在したものの、主な分析ソリューションとしてクラウドを使用することを困難にする重要な制限要因がありました。2013 年には、クラウド BI が成熟し、営業 CRM やヘルプデスク データを使う場合と同じように、クラウドのデータを利用してコラボレーションが可能になることが期待されます。



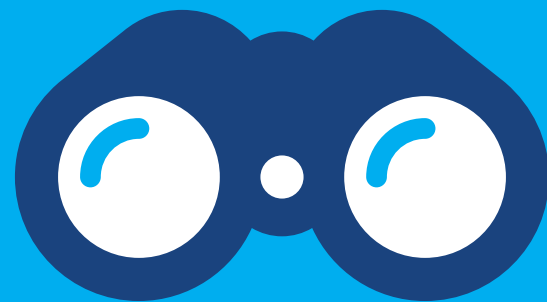
視覚的分析によるベスト プラクティス

長年にわたり、視覚的分析はビジネス インテリジェンスの最良のドキュメンタリーとされてきました。ただし、それは知識人にとってであり、一般大衆には印象の薄いものでした。視覚的分析がデータを使った検索、理解、通信に役立つことが、ようやく一般にも理解され始めています。視覚的分析は科学者に便利なツールではなく、ビジネス分析の優れたツールです。



予測と予測分析が一般的に

視覚的分析と同様に、予測も科学者の領域とされてきました。しかし、誰もが将来を知りたいと望んでいます。予測ツールが成熟し、ビジネスが新しいトレンドを特定し、より優れた計画を立てるのに役立っています。データからより多くの価値を引き出すために予測および予測分析が使用されるようになるにつれ、さらに一般的になることが期待されます。



モバイル BI が 1 つ上の階級へ

昨年、モバイル BI が主流になることが予測されましたが、果たしてそれが現実となりました。現在、販売員から保険査定員、店頭マネージャーまで、あらゆる人がタブレットを使って仕事に関するデータを瞬時に取得しています。今まで、モバイル BI はレポートの使用とわずかなインタラクティビティといったライト級のものでしたが、モバイル BI に大きな価値が見出され、質問のやり取りといったより優れた機能の傾向が見られます。



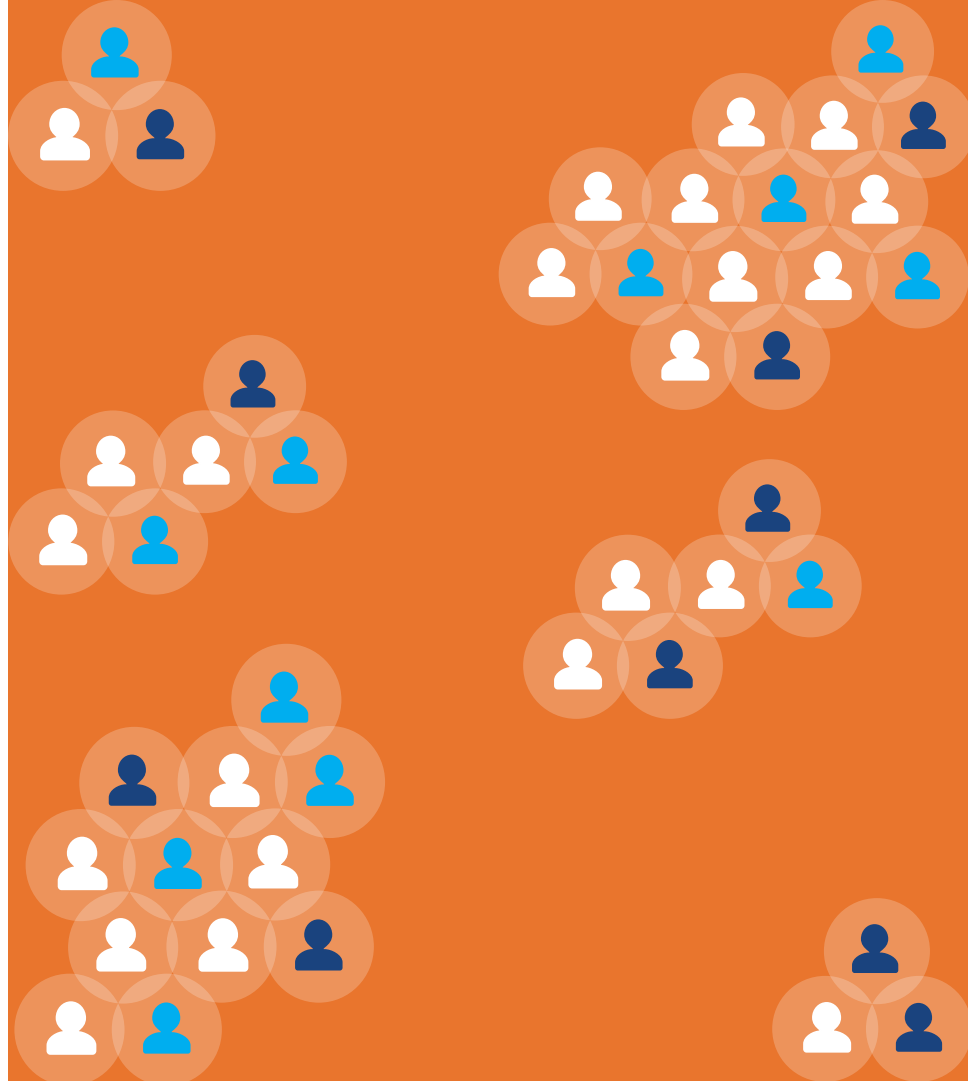
コラボレーションはもはや機能ではなく、現実のものに

ビジネス インテリジェンス ソリューションでは、よくコラボレーション機能が盛んに宣伝されてきましたが、2013年には、それだけでは十分でなくなります。コラボレーションは、ビジネス インテリジェンスの導入の本質でなければなりません。ビジネスに関する質問のやり取りといった共有体験なくして、ビジネス インテリジェンスは存在し得ないためです。2013年には、企業は問題の理解と解決に向けた共同作業に組織全体の人を関与させるための方法を追求するようになります。



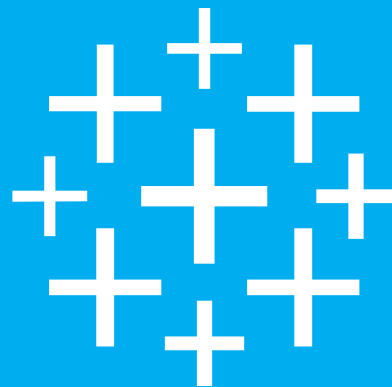
広範な分析がいよいよ広範に

業界では、「広範な BI」または「大衆のための BI」といった言葉について長年語られてきました。「ビジネス インテリジェンス」の市場以外にもまったく別のデータ市場があります。BI などのソフトウェア カテゴリではなくデータに注目すれば、ビジネス上の価値を最大限に高めるための核心を突くことができ、そして高速で使いやすい視覚的分析が全組織的な分析の採用およびコラボレーションへの扉を開く鍵となります。



この 10 項目のトレンドに将来性がある

これらのトレンドは、顧客が現在何をしていたり、将来のためにどこに投資しているかについて顧客と話すことで見えてきます。良い知らせは、先手を打って失敗した挫折感ではなく、さらに確実な先手を打つ意欲によって推進されている投資が最も多いことです。おそらく、過去数年間の新しいテクノロジーと投資がついに成果を上げ始めているのです。2013 年には、ビジネス インテリジェンスの大きな変化を必ず期待できます。



www.tableausoftware.com/desktop

Tableau Software は、お客様がデータを見て理解するのをお手伝いします。世界中の 10,000 を超える組織で使用されている Tableau は、迅速な分析、視覚化、および超高速処理ビジネスインテリジェンスを提供しています。

2013